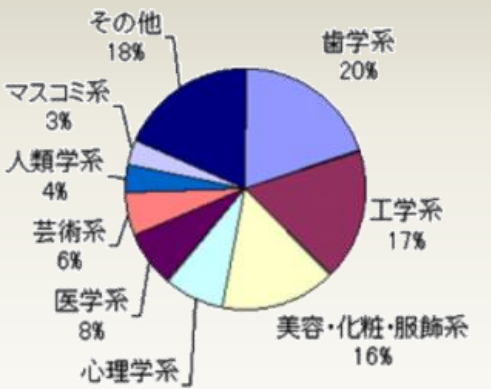


日本顔学会とは 『従来の枠組みを超えたネットワークの創造』

1995年3月,顔に関する研究の発展を期し,あわせて「顔学」の普及を図ることを目的に,顔の研究者,顔の研究に興味がある人が結集して,日本顔学会が発足しました。発足後5年の間に,国立科学博物館を中心とした大「顔」展を企画するなど,世界的に見ても類のない,新しいかたちの学会の活動が新たな波紋を社会に投じています。

従来の専門化・細分化してきた研究の流れとは逆の,統合化・総合化の動き



会員数:約750人
(2009年12月末の時点)

日本顔学会若手交流会(2012年11月~)

設立目的:若手の交流・議論の機会を増やし,顔学の未来を築いていく

参加資格:自称若手&自己紹介カードの提出(現在,約30名が参加)

これまでの成果:定期交流会5回,学術大会での若手企画,興水賞受賞,活動報告数件



活動内容

1. 定期交流会(年3回程度開催) ※講師は内部メンバーから毎回選出

<p>第1回 講師: 若手交流会ワークショップ 2012.11.24</p> <p>中川麻生(東芝) 似顔絵作成システムの研究者 (02.4~09.3) @東大 飯島 直樹研究室 似顔絵アーティスト(04~09.3) @ (株)星の子プロダクション 日本似顔絵協会 会員</p> <p>武藤祐子(旧:山野美容芸術大 現:大阪樟蔭女子大) 美容師の授業で顔の描き方講師 (09.4~現在) カリキュラムプロセス I, II 修了 (10.7~11.11) ハロウィン似顔絵 (11.10~現在) 田町アートプロジェクト (12)</p> <p>「似顔絵を描こう」</p> <p>ワークショップ&交流会の様様</p> <p>ワークショップの模様</p>	<p>第2回 講師: 若手交流会ワークショップ 2013.6.16</p> <p>フェイスストレッチングを習おう!</p> <p>牛山園子先生</p> <p>フェイスストレッチング協会認定講師 株式会社パーソナルカラー研究所スタジオHOWにて, フェイスストレッチング主宰の立ちかざりのもとで, フェイスストレッチング・インストラクターの資格を取得</p> <p>「フェイスストレッチング」</p> <p>ワークショップの模様</p>	<p>第3回 講師: 若手交流会ワークショップ 2013.9.28</p> <p>井上準子先生</p> <p>【プロフィール】 2002年 関西医科大学医学部医学科卒業。 公立総合病院での内科・皮膚科・総合診療科研究員を経て、 私立総合病院での内科・皮膚科・健診・人間ドックセンター等に勤務。 その後、美容医療・アンチエイジング医療に携わる。 大手美容クリニック勤務を経て、2012年からは、 阪大 慶友会が主催するクリニック・美容皮膚科部長を務める。</p> <p>【所属学会】 日本顔学会、日本美容皮膚科学会、日本美容外科学会JSAPS、日本抗加齢医学会、 日本化粧品学会</p> <p>「美容関連の発表と議論」</p> <p>ワークショップの模様</p>	<p>第4回 講師: 若手交流会ワークショップ 2013.12.15</p> <p>渡邊伸行先生</p> <p>【プロフィール】 2003年3月 日本大学文理学部心理学科 卒業 2003年3月 日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士前期課程 修了 2006年3月 日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程 修了 博士(心理学)</p> <p>所属:金沢工業大学 情報フロンティア学部 情報フロンティア系(心理情報学)</p> <p>「心理学における顔の測り方」</p> <p>ワークショップの模様</p>	<p>第5回 講師: 若手交流会ワークショップ 2014.4.20</p> <p>前島 謙宣 先生</p> <p>【プロフィール】 2002年3月31日 成蹊大学 工学部 卒業 2004年3月31日 成蹊大学 工学部 工学研究科 修了 2007年3月31日 早大 理工学工学研究科 修士(工学)取得 2010年2月 博士(工学)取得</p> <p>【職歴】 2007年4月1日~2010年3月31日 早大 理工学工学研究科 工学研究科 助手 2010年4月1日~2010年9月30日 早大 IT研究機構 客員研究員 2010年9月30日~2011年10月31日 早大 IT研究機構 次席研究員 2011年11月1日~2012年4月31日 エンペル工業株式会社 IT研究員 2012年5月1日~現在 早大 IT研究機構 次席研究員 (2013年9月~) 成蹊大学 非常勤講師</p> <p>「最先端顔合成技術について」</p> <p>ワークショップの模様</p>
--	---	--	---	--

2. 交流会メンバーでの有志活動【日本顔学会大会“フォーラム顔学2013”】

日本顔学会の年次開催フォーラムにて若手交流会の活動報告及び、体験会を実施し、交流会の認知、関心の喚起に努めました。

テーマ: “美”顔学~多分野から見た顔の美

<p>体験講座: フェイスストレッチング</p> <p>若手交流会の活動報告を行うと共に第2回交流会と同テーマで交流会の活動の体験会を開催</p> <p>参加者の専門分野は異なるものの、“顔”という共通テーマを持つ参加者には大いに興味を持って参加いただけた</p> <ul style="list-style-type: none"> - “顔”をテーマとした幅広い知識交流の様子を報告 - 来場者にも実際に体験していただくことで関心を喚起 <p>専門の異なるテーマに触れる機会を作るとともに、その興味深さをアピール “顔”という共通テーマを持つ参加者には大いに興味を持って参加いただけた</p>	<p>交流会メンバー討論会</p> <p>交流会メンバーが登壇しての討論会を開催 登壇者は心理学、美容、工学の分野から顔の美について討議。 若手研究者8名(渡邊、高橋、牛山、山南、武藤、舟橋、瀬尾、中洲)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 各分野で実現可能な基本的なシーズの紹介 - 各分野における課題、ニーズ等を共有 - 異分野との協力による可能性の示唆 <p>活動が認められ、フォーラムにて興水賞を頂きました!</p> <p>あらゆる分野の専門家が集まる顔学会の特徴を活かした学際的研究の推進 顔学会で出会い、実際に共同で研究をはじめられた異分野の研究者も</p>
--	---

若手交流会のこれまで

顔学会大会'11 若手自ら立ち上げ
・立ち上げ 気軽な話からスタートし、1年かけて交流会の構想作りと準備
・構想作りと準備

顔学会大会'12 発足宣言、各分野の特長を共有
・交流会の実行 新しい試みの導入(自己紹介カード、WS)
・可能性・課題の発見 基礎構築(メンバー、運営マニュアル、ML・掲示板)
・継続的な開催 外への周知(ニュースレター、似顔絵協会HP)

顔学会大会'13 活動報告、共通テーマの議論
・継続的な開催
・スタッフ不足による運営負担大 → 継続的な開催を優先し、まずはコンパクトな形に進めた

交流会参加者からの声

新たな(気軽な)つながり
新たな知見
新たな刺激
モチベーションの向上!

- ・色んな分野の人と知り合いになれたのが収穫
- ・年1度の学会以外でも会えるのは交流を深めるのに重要
- ・知り合いがいることで、顔学会大会参加の心理的ハードルがかなり下がった
- ・学会よりも気軽かつインタラクティブに質問できて良い。若手によるフランクな空間ならではの強み。
- ・自分のフィールドではなかなか得られない異分野の知見を得ることができて有益
- ・異分野の関連研究が自身の研究の応用先になることがある
- ・「皆、忙しい中で大変な研究をされていてすごい」と刺激になる
- ・若手の会を続けることにより、顔学会大会の継続参加のモチベーションになる

今後の成長戦略

